

## 仕訳（しわけ）とは

- 簿記では、お金に関する動きのことを（ ）という。
- 一般に、土地等の契約は「取引」と言われるが、簿記でいう『取引』は意味合いが異なり、【資産・負債・純資産・収益・費用】の金額に（ ）がある場合をいう。
- そして、この簿記でいう『取引』は、最初のステップとして（ ）という作業で記録をしていく。

●取引：「現金を1,000円借入れた。」を仕訳すると…

( 現金 ) 1,000 ( 借入金 ) 1,000 となる。

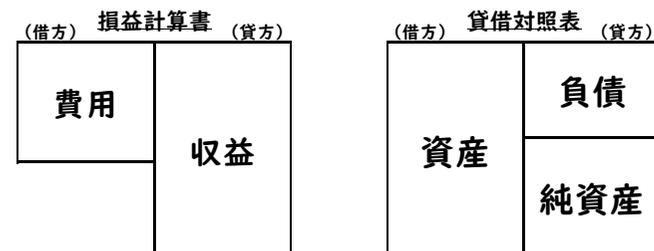
- このように、仕訳にはルールがあり、（ ）と金額を借方（左側）と貸方（右側）に分けて取引を記録していく。
- また、借方の合計金額と貸方の合計金額は必ず（ ）するという大きな特徴がある。

### ○用語○

勘定…取引で【資産・負債・純資産・収益・費用】に増減がある場合、これらを分けて記録するための集計表  
勘定科目…勘定（集計表）につけられたそれぞれの項目名

- 仕訳において、借方と貸方に分ける作業をしていく中で特に重要なことは、各勘定科目が持つ性質の基本ポジションから増減を考えるということである。

### 《基本ポジション》



#### ●考え方●

収益は本来「貸方」の項目、費用は本来「借方」の項目  
資産は本来「借方」の項目、負債・純資産は本来「貸方」の項目

- この基本の形から、【資産・負債・純資産・収益・費用】の増減を「借方」と「貸方」に分けると下記のようになる。

※増減は「+」か「-」で表す。なお、網掛けは基本ポジション。

(借方)	(貸方)
・資産 ( )	・資産 ( )
・負債 ( )	・負債 ( )
・純資産 ( )	・純資産 ( )
・収益 ( )	・収益 ( )
・費用 ( )	・費用 ( )

例)。「パソコン500円を現金で購入した。」を仕訳すると…

( ) ( )